### 問題の答え

　場合により、疑義照会が必要である。

　ネイリンはCYP3Aを中程度阻害する作用があるため、CYP3Aにより代謝されるニフェジピンの血中濃度が上がった結果、血圧が低下している恐れがある。患者の主訴より、医師がこの薬物動態に気付いていないかもしれないので、ニフェジピンの変更を確認した方が良い。

### 疑義照会の例

　AUCの上昇率など、詳しく伝えようとすると、話が長くなるので、端的に伝えた方が良い。ネイリンのCYP3A阻害作用により、ニフェジピンの効果が上がった結果、血圧が低くなっている恐れがあるので、減量またはCYP3Aの影響を受けにくいアムロジピンへの変更を提案すると良い。

### 処方鑑査のポイント

　添付文書の相互作用より、ネイリンはCYP3Aで主に代謝されるミダゾラム(経口)と併用した場合、ミダゾラムのCmaxは2.384倍、AUCは3.01倍に上昇する。ここで、「医療現場における薬物相互作用へのかかわり方ガイド（以下、ガイド）」より、ミダゾラムのCR寄与率は0.92なので、PISCS（CR-IR法）より、ネイリンのIR阻害率は約0.73と計算できる。



　ガイドより、ニフェジピンのCR寄与率は0.78なので、ネイリン(IR：0.73)と併用した時のAUCをPISCS【計算式：AUC＝１/（1ー0.78×0.73）】より計算すると、AUCは約2.32倍に上昇すると推測できる。参考として、ニフェジピンCR20mgから同40mgにすると、AUCは2.07倍に上昇する。よって、患者の血圧はネイリンによるニフェジピンの血中濃度上昇によって過度に下がっている恐れがある。ニフェジピンを同量のまま継続するより減量またはCYP3Aの影響を受けにくいカルシウム拮抗薬（アムロジピン）に変更した方が良いと考える。